[事案 2024-15] 契約者貸付無効請求

・令和7年2月28日 裁定打切り

<事案の概要>

無断で契約者貸付が行われたことを理由に、契約者貸付の無効を求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

平成21年6月および平成23年4月に契約した終身保険について、以下等の理由により、契約者貸付を無効にしてほしい。

- (1) 自分は、保険会社のインターネットサービスを申し込んだことはなく、ログインIDやパスワードを設定したことはない。
- (2) 本貸付の振込先に指定された口座は、自分が開設したものではなく、金融機関に確認したところ、自分の次男が偽造した委任状と運転免許証のコピーを使って開設したものだ。本貸付は、次男が自分名義で行なったものであり、自分は全く関与していない。

<保険会社の主張>

以下等の理由により、申立人の請求に応じることはできない。

- (1) 当社のインターネット利用規定にもとづき、第三者がIDとパスワードを使用したとしても当社は免責される。
- (2) 正しいIDとパスワードが使用され、貸付金は申立人名義の口座へ送金している。申立人から当社に対し、貸付時まで申立人の次男がなりすましを行う可能性がある等の情報提供は一切なかった。したがって、当社に過失はなく、本貸付は民法478条の類推適用により有効である。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、本貸付当時における申立人の事情等を確認するため、申立人および申立人代理人に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、以下の理由により、裁定手続を打ち切ることとした。

- (1) 申立人は、本貸付請求手続を行っておらず、申立人の次男がインターネット上で勝手に行ったと主張するが、これらの点を明らかにするためには、申立人の次男および一連の申立人の財産処分に関わった人物を証人として呼び出した上で、厳格な証拠調べ手続（宣誓の上、虚偽の供述に対しては、本人には過料の制裁が、証人には偽証罪の適用があり、相手方当事者による反対尋問権が保障されている手続）によって判断することが必要不可欠である。
- (2) しかしながら、裁判外紛争解決機関である裁定審査会には、裁判所におけるような厳格な証拠調べ手続は設けられていないことから、裁定審査会において事実認定を行うことは制度上不可能である。